

# 須坂市文書館年報

創刊号(令和元年 10 月)

平成 30 年度

須坂市文書館

発行 須坂市文書館  
須坂市大字須坂 812 番地 2  
(旧上高井郡役所内)  
電話 026-285-9041  
F A X 026-285-9175  
E-mail [bunshokan@city.suzaka.nagano.jp](mailto:bunshokan@city.suzaka.nagano.jp)

# 目 次

1 須坂市文書館の概要	-----	1
(1) 設立の目的		
(2) 基本業務		
(3) 沿革		
(4) 職員体制	-----	2
(5) 施設の概要		
(6) 蔵書点数		
(7) 利用案内		
2 平成 30 年度の事業実績	-----	3
(1) 公文書(非現用公文書)の収集		
(2) 地域資料の収集・整理		
① 資料の整理(須坂市域の史料目録作成)		
② 資料の寄贈		
③ 資料の寄託		
(3) 文書館の利用	-----	4
(4) 閲覧コーナーと開架図書を選定等		
(5) 視察等の受け入れ		
(6) 関係機関等との連携と普及・啓発事業		
① 博物館、図書館、旧上高井郡役所、文書館連携事業		
② 旧小田切家住宅への展示協力		
③ 文書等の紹介展示		
(7) 広報関係	-----	5
① 「広報須坂」 10月号、3月号及び須坂市ホームページへの掲載		
② 国立公文書館 アーカイブス等への掲載		
③ 文書整理、文書寄贈、寄託等の広報チラシの配布		
④ マスコミによる情報発信		
3 令和元年度の事業計画	-----	6
(1) 文書等の閲覧及び一般の利用に関する対応(通年実施)		
(2) 文書の収集・整理		
① 公文書(非現用公文書)の収集		
② 地域資料の収集、整理		

(3)	閲覧コーナー、開架図書の実	
(4)	視察等の受け入れ	
(5)	関係機関との連携と普及・啓発事業	7
(6)	刊行物の発行	
(7)	広報活動の実	
4	参考資料	
(1)	須坂市域の史料目録・閲覧申請用目録一覧	8
(2)	須坂市域の史料目録内容一覧	10

## 1 須坂市文書館の概要

### (1) 設立の目的

歴史資料として重要な文書、資料その他の記録(以下「文書等」という。)を収集及び保存し、広く一般の利用に供する。

### (2) 基本業務

- ① 文書等の収集、整理及び保存に関すること
- ② 文書等の閲覧及びその他一般の利用に関すること
- ③ 文書等に関する調査及び研究に関すること
- ④ 文書等に関する知識の普及及び啓発に関すること

### (3) 沿革

※名称は当時のもの

平成9年(1997)	教育委員会社会教育課で廃棄行政文書の収集を始める。
13年(2001)	近代文書等整理事業(行政文書・旧町村役場文書を中心に整理)を始める。～平成16年度まで
13年(2001)10月	須坂市市史検討委員会を設置する。
14年(2002)2月	須坂市市史検討委員会が「須坂市市史検討委員会提言」を市長に提出する。
14年(2002)4月	市誌編さん準備室を総務部企画課に設置する。
15年(2003)3月	市誌編さん準備室を廃止する。
17年(2005)	須高郷土史会に古文書及び近代文書の整理を委託する。
19年(2007)2月	須坂市市史検討委員会で須坂市市誌編さんの再開について協議する。
19年(2007)4月	旧上高井郡役所を拠点に、史料収集・整理・目録化を開始する。須坂市市史検討委員会で市誌編さん有識者会議の設置について協議する。
20年(2008)4月	旧上高井郡役所内に市誌編さん室を設置し編さん作業を始める。
21年(2009)2月	有識者会議を設置し、市誌編さんの基本方針について協議する。
23年(2011)12月	「須坂市誌」刊行を開始する。
30年(2018)3月	「須坂市誌」本編全5巻並びに別巻の刊行が完結する。
30年(2018)3月	須坂市文書館条例を制定する。 須坂市市誌編さん室を廃止する。
4月	須坂市文書館が開館する。
10月	須坂市文書館の一般利用を開始する。

(4) 職員体制

館長(嘱託) 1、事務員(嘱託・兼務) 1、専門員(臨時) 3、事務員(臨時) 1

(5) 施設の概要

事務室 24.7 m<sup>2</sup> 史料整理室 53.7 m<sup>2</sup>(内 閲覧コーナー 約17.9 m<sup>2</sup>)  
書庫 19.2 m<sup>2</sup> 土蔵 19.5 m<sup>2</sup> 物置 19.5 m<sup>2</sup> 計 136.6 m<sup>2</sup>  
※文化財活用倉庫 約500 m<sup>2</sup>

(6) 蔵書点数

閲覧申請用目録点数(平成30年度末現在)

蔵書の名称	点数
移管文書(非現用公文書)	5,530
所蔵文書(古文書)	17,327
寄託文書(古文書)	4,916
複製文書(古文書)	6,620
蔵書図書(寄贈、収集、購入を含む。)	4,447
合計点数	38,840

(7) 利用案内

休館日

- ・土曜日、日曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日
- ・12月29日から翌年の1月3日まで

開館時間

- ・午前9時から午後5時まで

文書閲覧等利用の流れ

- ① 須坂市文書館文書等閲覧・複写・撮影申請書を提出  
※閲覧等希望文書の名称は、備え付けの文書目録から特定する。
- ② 須坂市文書館文書等閲覧・複写・撮影許可通知書などを発行  
※申請書提出後、およそ10日ほど後に文書館から連絡する。
- ③ 許可通知により文書閲覧などの利用
  - ・閲覧等は、閲覧コーナーのみで利用
  - ・個人情報等の記載のある文書は、閲覧等の利用ができない場合がある。
  - ・所有者の意向により、複写等が許可されない文書がある。  
※開架図書の閲覧には、申請書の提出は不要  
※文書等の貸出は行わない。

## 2 平成 30 年度の事業実績

### (1) 公文書(非現用公文書)の収集

保存期限の経過後、歴史的価値があると判断し選別収集したものを。

年 度	点 数
平成 29 年度以前累計	5,457
平成 30 年度(平成 31 年 3 月)	73
合 計	5,530

### (2) 地域資料の収集・整理

#### ① 資料の整理(須坂市域の史料目録作成)

個人、区などが所蔵する古文書等の整理・目録を作成し目録を公開したもの。

史 料 目 録 名	点 数	主 な 内 容
吉池一彦家文書目録(前年度から継続)	2,388	松代領関係文書など
岡澤健治家文書目録(前年度から継続)	161	戦時下の農村実情に関する文書など
関谷和子家文書目録	102	「入〇関谷商舗」の蚕種商関係史料など
神尾経子家文書目録	204	明治期～昭和初期の製糸業関係など
米山嘉一家文書目録(名称・内容の再調整)	138	明治期の村や地区行政上の文書など
旧丸田医院文書目録(次年度へ継続)		
(仮称)坂本康之家文書目録(次年度へ継続)		
(仮称)山岸孝爾家文書目録(次年度へ継続)		

#### ② 資料の寄贈

史 資 料 名	寄贈者(敬称略)	点 数	主 な 内 容
牧幸一郎家文書(追加)	牧 幸一郎	69	道哥百人一首 全 など
岡澤健治家文書	岡澤 健治	161	戦時下の農村実情に関する文書など
関谷和子家文書	関谷 和子	102	「入〇関谷商舗」の蚕種商関係史料など
神尾経子家文書	神尾 経子	204	明治期～昭和初期の製糸業関係など
丸山文雄家寄贈図書	丸山 文雄	228	日本思想大系 1～67 など
安西もと子家寄贈図書	安西 もと子	9	亀倉神楽五十年史など

#### ③資料の寄託

史 資 料 名	寄託者(敬称略)	点 数	主 な 内 容
大沢英一郎家文書(再契約)	大沢英一郎	1,885	学問所聴人類留簿など
丸山行勝家文書(再契約)	丸山 行勝	36	宿方割増芻芻銭関係史料など

吉池一彦家文書	吉池 一彦	2,388	松代領関係文書など
浦野康彦家文書	浦野 康彦	607	川中島合戦図など

(3) 文書館の利用

文書館の利用者と閲覧申請者・閲覧申請点数など

	利用者数	市 内	市 外	閲覧申請者数	関係機関の利用数
平成 30 年度	82	48	34	15(57)	7(39)

※( )は、閲覧等の文書点数・展示等貸出の文書点数

※開架書架の資料の利用は点数に含まない。

(4) 閲覧コーナーと開架図書の選定等

史料整理室の一角に閲覧コーナーを設置し、開架図書約 870 冊を配置し、利用者の利便を図るとともに、利用の増加に努めた。

(5) 視察等の受け入れ

団体名等	人数
坂城町教育文化課ほか	22
岡山県立記録資料館 館長	1
2 団体	23

(6) 関係機関等との連携と普及・啓発事業

① 博物館、図書館、旧上高井郡役所、文書館連携事業

生涯学習スポーツ課、博物館、図書館、旧上高井郡役所、文書館との共催による「文化講座」の開催

開催日 平成 30 年 7 月 7 日

講 師 東京都江戸東京博物館名誉館長 竹内 誠 氏

内 容 「西郷隆盛 因縁ばなし」

会 場 中央公民館 3 階ホール

参加者 97 名

② 旧小田切家住宅への展示協力

文書館所蔵文書(小田切家文書)の紹介と旧小田切家住宅との連携を密接にし、相乗効果を図るため、旧小田切家住宅での企画展へ旧小田切家関係古文書の展示協力を実施

住 所 須坂市大字須坂 423 番地 1

名 称 旧小田切家住宅

貸出し実施期間 平成 30 年 10 月 1 日～継続中

展示のための貸出古文書数 延べ 18 点

③ 文書等の紹介展示

文書整理・目録作成を終了した古文書について、一部文書等の紹介展示を実施

ア 市川幸夫家文書

展示期間 平成 29 年度から継続展示～平成 31 年 1 月 31 日

展示場所 旧上高井郡役所廊下

内 容 「江戸・明治期の訴訟関連」・「明治期の切り絵図」

イ 吉池一彦家文書

展示期間 平成 31 年 2 月 1 日～継続中

展示場所 旧上高井郡役所廊下

内 容 「江戸時代のむらの暮らし」

(7) 広報関係

文書館の事業紹介と、文書の散逸防止に向けて「広報須坂」やホームページ等で広報を行なった。

① 「広報須坂」 10月号、3月号及び須坂市ホームページへの掲載

文書館の開館・一般利用開始、文書・展示紹介、文書整理・目録作成の案内

② 国立公文書館 アーカイブス等への掲載

全国公文書館関係資料集への情報提供

アーカイブス 71号(web版・3月)への寄稿 「須坂市文書館の紹介」

③ 文書整理、文書寄贈、寄託等の広報チラシの配布

博物館等社会教育施設への設置

④ マスコミによる情報発信

信濃毎日新聞 10月 須坂市文書館の一般利用の開始

須坂新聞 4月 須坂市文書館の開館等

9月 須坂市文書館の一般利用の開始

### 3 令和元年度の事業計画

文書館は、平成30年4月、歴史資料として重要な文書、資料その他の記録、いわゆる文書等を収集保存し、一般の利用に供するとともに、文書等の調査、研究、文書等に関する知識の普及及び啓発等を行うため、設置したものであり、同年10月1日から文書等の閲覧及び一般の利用に関する事項を実施している。

文書館をとりまく昨今の状況が刻々と変化するなか、地域の資料散逸防止を図るとともに、資料を保存し、利用に供する文書館の目的に沿い事業を推進していく。

#### (1) 文書等の閲覧及び一般の利用に関する対応(通年実施)

閲覧申請に係る対応等の効率化と閲覧等可能(公開)文書の特定による閲覧等許可の定型化のため、閲覧等許可検討会を週1回開催する。

また、個人情報の保護にかかる速やかな対応に向け、利用制限に関する基準等のルールの見直しや、職員の知識平準化に向けての研修等を随時実施する。

#### (2) 文書の収集・整理

閲覧申請の基本となる、文書館所有文書の目録としての、移管行政文書目録、古文書等の文書館資料目録、個人からお借りし、複製して保存している文書の複製文書目録など各種目録の作成、整備を推進する。

##### ① 公文書(非現用公文書)の収集

年1回実施される公文書の廃棄に併せ、行政文書(公文書(非現用公文書))の収集を行い、令和元年移管行政文書目録の作成、整備を推進する。

9月に実施予定

##### ② 地域資料の収集、整理

古文書等の史資料に係る情報提供をお願いし、文書整理と目録作成、整備を推進する。また、目録作成をした資料については、須坂市域の史料目録としての公開、資料の閲覧(複製資料を含む。)等の許可を得るなど、一般利用できる資料の拡充に努める。

資料の寄贈、寄託等について、市民への呼び掛けを実施する。

#### (3) 閲覧コーナー、開架図書の充実

閲覧いただく場所として設置した閲覧コーナー書棚の増設と開架図書の拡充等を逐次推進する。

#### (4) 視察等の受け入れ

文書館の利用増加に向け、市内外の視察等を積極的に受け入れていく。

(5) 関係機関との連携と普及・啓発事業

博物館・図書館・旧上高井郡役所・文書館等による連携事業を実施する。

旧小田切家住宅、園里郷土資料館等での古文書の展示等に積極的に協力する。

文書館での文書等の紹介展示を継続して実施する。

※交流室2での古文書展示・紹介

(6) 刊行物の発行

次の刊行物を編集・発行する。

- ・「須坂市域の史料目録」第10集

発行日 令和2年2月予定

内 容 「(仮)坂本家文書目録」などを予定

- ・「もんじょ紹介」No.21～No.23

発行日 逐次

内 容 「市川幸夫家文書」、「小田切幸一家文書(追加分Ⅰ・Ⅱ)」などを予定

(7) 広報活動の充実

文書館の事業紹介と文書の散逸防止等に向けての広報活動を行うとともに、マスコミ等への情報発信等により、広報活動の充実を図る。

登録No.	史料名	点数	閲覧申請用目録名	所有者への申請手続き
001	中澤吉四郎家文書	2,649	資料目録	(須坂市所蔵)
002	小田切幸一家文書	898	資料目録	(須坂市所蔵)
002	小田切幸一家文書 追加分Ⅰ	1,093	資料目録	(須坂市所蔵)
002	小田切幸一家文書 追加分Ⅱ	1,018	資料目録	(須坂市所蔵)
002	小田切幸一家文書 追加分Ⅲ	531	資料目録	(須坂市所蔵)
003	永田正夫家文書	103	複製文書目録	直接閲覧等依頼
004	原滋収集資料	296	資料目録	(須坂市所蔵)
005	上高井教育会文書	568	資料目録	(須坂市所蔵)
006-(1)	坂本康之家文書	3,236	資料目録	(須坂市所蔵)
007	岡沢主計収集資料	1,050	資料目録	(須坂市所蔵)
008	山岸治家文書	679	複製文書目録	文書館経由
009	森ゆり子家文書	79	複製文書目録	文書館経由
010	大日向町区有文書	172	複製文書目録	文書館経由
011	野平祐治家文書	80	複製文書目録	文書館経由
012	須坂高等職業訓練校文書	120	資料目録	(須坂市所蔵)
013	米持町区有文書	3,608	複製文書目録	文書館経由
014	土屋武廣家文書	539	複製文書目録	文書館経由
015	窪田司家文書	43	資料目録	(須坂市所蔵)
016	相之島町区有文書	2,897	複製文書目録	文書館経由
017	堀内秀雄家文書	1,157	複製文書目録	文書館経由
018	九反田町区有文書	1,695	非公開・複製文書目録	文書館経由
019	小林忠治家寄贈	71	資料目録	(須坂市所蔵)
020	中島町区有文書	1,115	複製文書目録	文書館経由
021	山下徹家文書	1,178	複製文書目録	文書館経由
022	浦野治郎家文書	308	複製文書目録	文書館経由
023	高梨町区有文書	252	複製文書目録	文書館経由
024	斉藤和義家文書	132	複製文書目録	文書館経由
025	太子町区有文書	4,633	複製文書目録	文書館経由
026	井上町区有文書	5,675	複製文書目録	文書館経由
027	塚田茂博家文書	1,245	複製文書目録	文書館経由
028	境沢町区有文書	416	複製文書目録	文書館経由
029	村山町区有文書	1,087	複製文書目録	文書館経由
030	八重森町区有文書	770	複製文書目録	文書館経由
031	沼目町区有文書	701	複製文書目録	文書館経由
032	福島町区有文書	900	複製文書目録	文書館経由
033	菅平牧場畜産農協文書	814	資料目録	(須坂市所蔵)
034	五閑町区有文書	182	複製文書目録	文書館経由
035	岡村博文家文書	3,598	複製文書目録	文書館経由
036	原稔家文書	34	複製文書目録	文書館経由
037	小林敏生家文書	62	複製文書目録	文書館経由
038	佐藤英治家文書	827	複製文書目録	文書館経由
039	日滝史蹟保存会文書	2,008	複製文書目録	文書館経由

登録No.	史料名	点数	閲覧申請用目録名	所有者への申請手続き
040	竹前源治家文書	250	複製文書目録	文書館経由
041	市川喜太郎家文書	2,934	複製文書目録	文書館経由
042	田中本家文書	1,281	複製文書目録	文書館経由
043	仁礼会文書	4,796	複製文書目録	文書館経由
044	返町昭男家文書	130	複製文書目録	文書館経由
045	旧丸田医院文書	581	資料目録	(須坂市所蔵)
046	山岸善澄家文書	3	複製文書目録	文書館経由
047	小河原郷中文書	236	複製文書目録	文書館経由
048	小河原町区有文書	614	複製文書目録	文書館経由
049	袖山三樹雄家文書	397	複製文書目録	文書館経由
050	駒津悦男家文書	464	複製文書目録	文書館経由
051	境文雄家文書	968	複製文書目録	文書館経由
052	大沢英一郎家文書	1,885	資料目録・複製文書目録	(寄託)
053	丸山行勝家文書	36	資料目録・複製文書目録	(寄託)
054	福島町第六番組所蔵文書	11	複製文書目録	文書館経由
055	野辺町区有文書	677	複製文書目録	文書館経由
056	亀倉町区有文書	943	史料目録・複製文書目録	※(寄託)
057	牧久雄家文書	363	複製文書目録	文書館経由
057	牧久雄家文書 追加分	418	複製文書目録	文書館経由
058	福島新田文書	917	資料目録・複製文書目録	(須坂市所蔵)
059	米山嘉一家文書	138	資料目録	(須坂市所蔵)
060	田中敏治家文書	63	資料目録	(須坂市所蔵)
061	高内鉄弥家文書	258	資料目録・複製文書目録	(須坂市所蔵)
062	坂田近右衛門家文書 追加分	167	資料目録・複製文書目録	(須坂市所蔵)
063	牧七郎右衛門家文書	182	資料目録・複製文書目録	(須坂市所蔵)
064	水野寿夫家文書	10	資料目録	(須坂市所蔵)
065	黒川真家寄贈文書	928	資料目録・複製文書目録	(須坂市所蔵)
066	鈴木敏司家寄贈文書	154	資料目録	(須坂市所蔵)
067	上原太郎家文書(塩屋文書)	1,085	複製文書目録	文書館経由
068	坂本家関係文書	42	資料目録	(須坂市所蔵)
069	丸山正道家文書	76		文書館経由
070	真木序家文書	334	資料目録	(須坂市所蔵)
071	牧幸一郎家文書	1,722	資料目録	(須坂市所蔵)
072	市川幸夫家文書	1,023	資料目録・複製文書目録	※(須坂市所蔵)
073	墨坂神社文書	1,075		直接閲覧等依頼
074	(欠番)			
075	吉池一彦家文書	2389	資料目録	(寄託)
076	浦野康彦家文書	607	資料目録・複製文書目録	(寄託)
077	永井順裕家文書	11	資料目録	(須坂市所蔵)
078	岡澤健治家文書	161	資料目録	(須坂市所蔵)
079	関谷和子家文書	102	資料目録	(須坂市所蔵)
080	神尾經子家文書	204	資料目録	(須坂市所蔵)
				※は令和元年移行

史料番号	史料名	主な内容
001	中澤吉四郎家文書 (須坂市指定有形文化財)	中澤吉右衛門、中澤吉四郎に係る江戸期から明治における名主、行政、家業に関する膨大な史料群である。吉右衛門の町役人、家業に関するもの、長男吉四郎の町政に関する記録類(戸籍、租税・公債、土地、訴訟・警察、職業、議会・勸業会、人事、規則・規定、社寺、諸施設・建設、公用記録簿などの関係)、吉四郎家に関する記録類(穀物販売業、貸本業、製糸業など)及び親類・縁者などの書簡が史料の主なものである。吉四郎は、明治8年から30年近く戸長や初代須坂町長等を歴任したことから、町政に関する史料が数多くある。須坂町は明治22年に戸長役場の火災でほとんどの行政文書を焼失したこともあり、大変貴重なものである。
002	小田切幸一家文書	幕末期から糶屋・油屋・糸師・呉服商を営み、町年寄、須坂藩の御用達を勤めていた12代小田切辰之助と弟武兵衛にかかるとの史料がほとんどで、明治初年から10年代に作成されたものである。史料の多くは製糸・蚕種経営のものであるが、金融、銀行関係史料もある。
002	小田切幸一家文書 追加分Ⅰ	最初の文書目録の史料より古い史料として、寛政一文化・文政一天保期の史料があり、本文書最古の史料は寛政3年(1791)3月の「上下(かみしも)着用者書上覚」である。明治期では、地租改正地券や字上町外の町内絵図がある。大正昭和期では、所有土地台帳、借家・小作人調べ台帳など経営に関わる史料がある。
002	小田切幸一家文書 追加分Ⅱ	本書最古は安永8年(1779)10月の「借用申金子之事」であり、江戸期の資料群のほか、明治期から大正期の史料として、繭購入に係る貨物送券、繭売買控書など製糸経営関係のほか、小作長関係、銀行関係営業報告などの史料がある。また、昭和期の史料では、経済活動を示すものがある。
002	小田切幸一家文書 追加分Ⅲ	追加分Ⅲは、平成24年(2012)6月に市が小田切家から取得した土地とともに発掘された文書を目録化したもので、本書は明治期から昭和期の新聞、諸史料、学習ノート、書簡等が主なものである。諸史料には、茶道、華道の許上、免状などがある。
003	永田正夫家文書	幕末から昭和前期までの永田家の冠婚葬祭・出征帰還諸費控帳があり、賄などの推移がわかる。また萬控えは明治38年から40年代までの記録がされているほか、明治34年度の豊丘村役場から区長への通知・連絡の50枚ほどの簿冊がある。このほか、江戸期の史料として、市川出水の際の水防規程の請け書などがある。
004	原滋収集資料	江戸期から昭和の地域史や被差別部落史研究にかかる調査メモ及び史料の複写などの収集資料である。
005	上高井教育会文書	教育会関係の資料と『上高井誌』編纂の際の収集資料の2種類に目録化した。上高井誌関係資料では、国県市町村の統計書、文書類として昭和10年代からの郷土史研究の諸調査・報告書のほか、野辺、坂田などの地誌帳などの古文書がある。また地図類では、郡役所に提出された明治期の道路、水路などがある。このほか、昭和27年撮影のJHQの航空写真、昭和10年代に撮影された神社仏閣の文化財や文書史料等の写真がある。
006-(1)	坂本康之家文書	初代から11代にわたって続く大地主・豪農の系譜をひく坂本家の正徳2年(1712)以降の史料で、享和元年(1801)幕府24か村の取締役、後の中野代官所管内の郡中取締役としての関係資料などがある。昭和50年代に仮目録化した興津氏作成の稿本「文書目録」とともに、北信幕府領支配の実態解明には不可欠の史料群として、特色ある史料である。
007	岡沢主計収集資料	須坂の歴史や郷土史の調査・研究にかかる調査メモ及び史料の複写などの収集資料がある。また、キノコに関する研究史料や堀直虎、原嘉道の伝記執筆にかかる収集資料がある。

史料番号	史料名	主な内容
008	山岸治家文書	幕末のころから明治～昭和にかけての土地関係の史料が多くあり、土地を集積しながら、農業経営者として大きく成長してきたことが判る。また太平洋戦争中等の史料として、軍隊関係書類があり、特攻隊員として戦地に赴く山岸邦夫（6代勇の父）が、両親や妻に宛てた遺書がある。
009	森ゆり子家文書	代々須坂藩士として目付け役も勤めた森家に伝わる史料で、武士としての心構え(兵法、武士道など)・たしなみ(和歌など)の史料のほか、辞令・賞典、森家に関する系図などがある。
010	大日向町区有文書	昭和期の戦時体制の動きに対応した大日向区の動向をつかめる史料のほか、灰野川の度重なる災害、その治水史料がある。また、戦後の復興に関する史料、仁礼村と豊丘村が合体合併して東村になった経過と基本計画書、地図類などがある。
011	野平祐治家文書	野平野平(道正)、野平道周(平太郎)親子に関わるものが主で、江戸末期の須坂藩や明治初期の須坂町の動向に関わる史料である。とりわけ直虎の祐筆として側近であった野平野平(のだいら やへい)の手記は直虎の諫死の原因や背景を研究する上で欠かせない史料である。
012	須坂高等職業訓練校文書	平成19年度をもって閉校となった須坂高等職業訓練校の発足から閉校まで47年間の資料で、企画運営、教育指導訓練、会計経理などに係る資料である。
013	米持町区有文書	米持町区では「米持町区有古文書目録(江戸時代編)」として文書目録を作成している。本史料目録は、それにつぐ近現代編である。1000点を超える土地税制史料のほか、河川道路土木史料の中に百々川・鮎川の氾濫による水災地復旧関係史料などがある。また、教育文化史料の中には青年会に関する史料もある。
014	土屋武廣家文書	江戸末期から明治時代に活躍した初代土屋栄七から三代までの、家業(米穀業、蚕糸業)・土地所有・金融関係などや公職(町役人、町会議員)関係の史料である。
015	窪田司家文書	窪田氏が区民に呼びかけ収集した大正、昭和の刊行物、写真類が主なものである。写真館が撮影した大正期の山丸組製糸関係、蚕児雌雄鑑別などは年月の記載のある資料である。
016	相之島町区有文書	共有地関係史料が多く、共有地の経営や活用の方法にかかわる共有割替地史料や洪水との共生・かかわりを示す水防災・水利・土木史料などがある。また、村全体の基本史料である行財政・治安や土地税制のほか、絵図などの関係史料が多数ある。
017	堀内秀雄家文書	堀内家の名主文書が中心であり、若干の地主経営に関する私文書もあるが、ほとんどが名主家に関わる福島村関係文書である。土地・税制関係史料のほか、村政・治安・宿場関係、土手普請・土木関係の史料がある。宿駅であった福島村には、村方三役のほか宿駅を経営する本陣・問屋役があったが、名主は本陣・問屋役と役割分担しつつ村の経営を任されていたためか、宿駅関係文書は少ない。
018	九反田町区有文書	村の共有地と村民による小作料収納関係文書が多く、寛永7年(1630)を初出に300余点の江戸時代の年貢関係文書がある。土地・税制文書は、江戸時代の年貢割り付けとその皆済目録を主としており、行財政文書は村の経費と小作料取立等の財政、土木・土地文書は鮎川・市川(百々川)を主とした水防災・土木などについてである。このほか、時々河川の推移や住居・耕地の移動等がわかる絵図がある。
019	小林忠治家寄贈	新聞類が中心であり「北信新報」・「須坂新報」・「須坂市報」・「須坂新聞」が年度あるいは号数の区切りで整理、製本されている。また国会議員・県議員・市長・農業委員などの選挙関係綴りがある。

史料番号	史料名	主な内容
020	中島町区有文書	明治20年(1887)村内有力者が中心となり几帳面な整理がなされている。寛保2年から明治7年までの年貢割付状・同皆済目録のほか江戸期の川除け普請出来形帳、田畑起返手当金割渡し帳などがある。また、明治以降では、地租改正関係史料のほか、大正期の新百々川回収工事(暗渠排水工事ほか)や賦銭大賦銭取調帳関係史料がある。
021	山下徹家文書	古くから薬種商として活躍し、幕末にいたっては藩御用達格として藩を支えてきた山下八右衛門関係史料であり、慶安期を初めとする史料のほか、18世紀以降の史料が大半である。山下家私家・経営、須坂藩・内外風聞、文化・宗教、典籍などの史料があり、薬種商関係史料として『新刊万病回春』、『薬品手引草』などがある。また、晩晴吟社に関する畔上聖誕関係史料、伊勢講、『皇朝史略』(典籍)などがある。
022	浦野治郎家文書	江戸後期から明治初期の史料が主であり、須坂市新町で生計を営む商家としての私文書と茂市・太郎右衛門時代の町年寄・戸長・町用掛など役職上必要な文書類である。浦野幸静(太郎右衛門)が天保15年(1844)1月から嘉永6年(1853)7月までの10年分の須坂藩や町方の動向を安政2年(1855)に11か月かけて筆写した「御用并町方留」5冊のほか、「製糸清蔵規定」、「会社検査糸位等級表」など器機製糸初期の史料や御嶽教関係資料などがある。
023	高梨町区有文書	江戸期から明治期までの史料が主であり、土地税制史料には、江戸期、大正昭和期の土地台帳の名寄帳がある。また、引高覚には、弘化4年善光寺地震には158石余の引高を記したものがある。行財政治安史料には、村定、幕末の冠婚葬祭の儉約規定がある。用水堤防普請史料には、中島村新土手訴訟などの史料がある。
024	斎藤和義家文書	斎藤家の名主文書が中心で、天明期～文政期の史料が主である。北国街道と大笹街道の分岐点に位置する宿駅福島村関係文書として、年貢関係史料や御条目五人組請書などのほか、享保8年(1723)11月の入会山関係文書などがある。
025	太子町区有文書	太子町は太子堂の建立にともなって造られた町で、町の形状の変遷を示す文政10年(1827)の屋敷絵図、明治初年の太子町絵図などがある。太子信仰に関わる史料では、江戸期の文書と寛文6年刊の『聖徳太子傳』などがある。行政史料では、夫銭割合帳などの区会計諸帳簿類と明治・大正期の消防関係書類がある。信仰史料はほとんどが太子祭と太子殿等の修復関係書類である。
026	井上町区有文書	江戸・明治・大正・昭和期にわたる大史料群であり、江戸・明治期の史料も多い。行財政史料には代官所と村とのかかわりを示す史料として、代官所からの廻達文書が書き写された「御公用留帳」のほか、賭博、悪党取り締まり、儉約のほか百姓の生活規制、奉公人江戸出稼ぎ等の史料がある。土地・税制史料のうち江戸期では、年貢割付・同皆済目録が多く、明治期では、地租改正関係の類外地のほか丈量誤謬調査に関する史料もある。
027	塚田茂博家文書	名主家文書等福島村関係史料のほか、北国街道宿駅史料、千曲川通船関係史料、千曲川西向かい側に位置する福島新田村(明治19年屋島村)との関係を示す史料がある。また、市川・鮎川落合水除け場所をめぐる中島村との係争史料(明治11年)もある。史料は、江戸期から明治期・大正昭和期に及ぶ史料群である。
028	境沢町区有文書	江戸期の史料は少なく、明治期・大正昭和期が主なものである。明治期では、土地関係、水害関係史料が多い。また、水害に伴う消防・衛生活動史料、井戸・水道などの史料もある。大正期では、上高井郡豊丘村大正3年度県税戸数割等等級差金決議書などの史料がある。このほか、兵役その他史料として煙火打揚願(入営祝賀)などの史料がある。

史料番号	史料名	主な内容
029	村山町区有文書	村山町区有文書と村山町共有地文書がある。江戸期では、新田改め等土地改出帳、御触書・法度・村定など、明治以降では、地券帳、村境約定書、堤防普請関係などがあり、昭和期では「村山区記録 巻」などがある。共有地文書の江戸期・明治期では、百々川筋の防水や用水、福島村などとの境界出入に関わる史料が多い。大正期以降では、共有地持株に関する史料や千曲川改修工事関係史料、共有地年貢支払簿などがある。
030	八重森町区有文書	江戸時代の史料は少ないが、元文3年(1738)の絵図は、縦185cm、横318cmの大判絵図で百々川をはさんで八重森村と村山村の家の場所や田畑の分布が描かれている。区関係史料はほとんどが昭和期で区費徴収のための基礎資料などがある。土地関係史料では、高山村の入会山に関する史料が多く、用排水路工事関係史料や「農村総合整備モデル事業」関係史料のほか高速道関係史料などがある。
031	沼目町区有文書	江戸期から昭和期までの史料があり、江戸期では、元禄12年(1699)に書写した寛永5年(1628)9月の「沼目村地詰御帳」のほか、江戸期全般を通じての名寄帳などがある。明治期では、村方規定書や規約書(堤防修築に関する三部落規約)などがあり、昭和期では、区費や小作料関係史料がある。このほか涅槃絵像や薬師堂に関わる史料がある。
032	福島町区有文書	江戸期から昭和期までの史料があり、江戸期では伝馬宿証文、北国街道宿駅関係史料、千曲川流路変更による共有割替地史料・境界争論史料や絵地図のほか御用達金・拝借金・困穀・俵約書上帳等の村の経営に関する史料がある。明治期では壬申地券調査段階の田畑の面積調査「野帳」や地租改正関係史料があり、大正・昭和期では割替え・共有地や荒地・起返し関係史料ある。また、元禄14年福島村絵図や「天神社縁起」など神社関係史料がある。
033	菅平牧場畜産農協文書	菅平牧場畜産農業組合は明治16年(1883)の発祥以来130年以上の歴史がある。史料は昭和23年からのものが主である。明治期では沿革(灰野牧畜改良会社設立)や北信産牛馬組合定款などがある。昭和期では、組合の運営関係がおもで、乳牛・役牛・馬の放牧台帳や観光開発、保養所関係の史料もある。また『菅平牧場百年史』が昭和58年に刊行され、その際に収集された複写文書などもある。
034	五閑町区有文書	江戸期の史料は「為取替之事(村山・五閑村両村川払規定)」ほか数点で、明治期、昭和期の史料が主である。明治期では、「地租改正御達」、「百々川伐拂規約書」、五閑村名簿、神社合併願などの史料があり、昭和期では、公会堂建設関係や区の運営関係の史料がある。
035	岡村博文家文書	江戸期の名主文書などから明治・大正期の郡役所期までの史料群である。江戸期では、文化8年から嘉永7年の「公私両用日記帳」、天保期の「歳中日記帳」などの史料がある。明治元年から戸籍区のものでは、第三十八区関係史料としての壬申地券作成史料や学校設立関係史料がある。大区小区期のものでは、二十数か村提出文書や民費、土地丈量・村等級作成などの史料がある。郡役所開所期のものでは、「方寸誌」や小作帳などのほか、連合戸長役場関係史料などもある。このほか書簡などとして書簡文例、コレラ予防いろは歌などの史料がある。
036	原稔家文書	江戸時期の名主文書などは、別に整理されており、明治期以降大正期までの史料である。明治11年(1878)から大正6年(1917)にかけての小山村、坂田・豊丘村を合併した新小山村関係などの村会議案や会議書類綴などの史料のほか、市川の水害防止関係の「市川堤防工事費仕送帳」などの史料がある。
037	小林敏生家文書	幕末から明治維新时期等にいたる須坂藩士要右衛門季定関連の史料である。剣術関係では、「直心影流究理巻校合本 藤原直虎」、「同源季定」の史料がある。また、須坂藩士関係としては、「御広間本席被仰付け」、「若殿様御納戸役」などの史料がある。このほか「総督府御兵」、「戊辰山道之官軍章典」、「馬車乗用之証」などの史料がある。

史料番号	史料名	主な内容
038	佐藤英治家文書	江戸期から明治・大正期にいたる史料である。江戸初期のものでは、天文15年(1546)年の「戸石城攻め感状」「武田晴信発信文書」、永禄11年(1568)の「軍役下知状」や慶長期の「信濃国高井郡八重森村検地帳」、「信州四郡草山年貢帳」などの史料がある。享保期では、公用留帳や安政期の改革にまつわる雑税金割合帳などの史料がある。また、須坂藩への献金・才覚金などに対する藩からの褒状もある。明治大正期では、廃藩置県前の東京出府日記、借用証文などの史料がある。
039	日滝史蹟保存会文書	江戸期から昭和にかけての史料である。江戸期では、元和6年(1620)の「日滝村地詰之帳」、寛政期の用水出入り一件、文化文政期の久離・帳外しなどの史料がある。明治期では、水車設立・故障をめぐる裁判関係史料、役場関係諸史料、消防史料、本郷区戸籍や財政関係史料などがある。昭和期では日中戦争から太平洋戦争への時代の動向を示す昭和18～20年の史料と終戦直後の史料がある。このほか健御名方神社に係る神社関係史料がある。
040	竹前源治家文書	江戸期における名主など村役職就任の折の史料が中心である。江戸期では、寛文13年(1673)の譲渡し証文「相渡申手形之事」、「信濃国高井郡米子村高反別書上帳」、「高井郡米子村硫黄山明細書上帳」などのほか、年貢関係文書、質地証文、借金証文などの史料がある。なお、寛永年間に硫黄採掘を開始した村であるが、硫黄関係文書が少ないなかで、硫黄請負をしたことのある竹前権兵衛自筆の書簡が史料としてある。
041	市川喜太郎家文書	寛永12年(1625)7月の「灰野村地詰帳」を初出とする近世から近代・現代にわたる広範囲な史料群である。幕末から明治期に灰野村・園里村内の重鎮として活躍した市川佐治右衛門関係史料が多い。江戸期では、須坂藩領関係文書として名寄帳・新田改帳、献上金、御触書写覚帳など藩の苦しい財政を窺わせる史料がある。明治期以降では、地租改正関係史料のほか新溜池開発や灰野牛関係史料があり、さらに時代がたつと北信産牛馬に組合史料がある。
042	田中本家文書	豪商田中本家の史料群のうち、目録化されている「田中家文書目録(1)、(2)」以外の未整理史料群の一つである。万延元年前後の須坂藩との関係史料としての才覚金調達請取史料のほか藩重鎮との関係を示す書簡が多数ある。また、明治3年前後の田畑小作地や貸家等を大量に質入れ地としている史料のほか、幕末から明治期にかけての田中本家地主経営の側面を示す明治30年代の土地台帳もある。
043	仁礼会文書	旧仁礼村と旧栃倉村に関わる文書のほか仁礼村・仙仁村等11ヵ村入会からなる入会山関係文書の史料群である。幕府領年貢関係の「信州高井郡栃倉村御検地帳」や「信州高井郡栃倉村新田御検地帳」などがあり、栃倉村文書の年貢割付・同皆済目録は寛文元年から明治元年までの期間のものがある。松代藩領仁礼村に関しては、天保3年以降の皆済目録が史料「覚」としてあるほか、文久元年の皇女和宮下向助郷史料や松代藩騒動御の組織内取極議定一札などがある。明治期以降では、地租改正関係帳帳簿のほか、徴兵国民軍・戸籍帳や丈量誤謬訂正関係文書があり、このほか入会山関係史料がある。
044	返町昭男家文書	幕末から大正時代までの史料である。幕末から明治初年に相森新田の名主を勤めた7代目彦右衛門と8代目本重郎時代の記録が主で、早害常襲地である相森を含めた日滝原への引水をめぐって高井野村と繰り返した水争いや日滝村内で起きた水車問題に関する記録等がある。また、絵図では地租改正、地券交付に不可欠な絵図等のほか、明治初年の相森住民の氏名入り絵図などがある。このほか、宗門改帳、日露戦争後に新設された溜池工事に係る史料がある。

史料番号	史料名	主な内容
045	旧丸田医院文書	明治20年～昭和16年頃までの、須坂市域の医療に従事した医院経営に関わる書類と医学関係の書籍・雑誌、写真類による史料である。医院経営にかかわるものは、金銭出納帳、投薬記録などの帳簿類が主であるが、投薬記録には、工女たちへの投薬記録をはじめ、主な製糸工場別の投薬記録がある。医療関係書籍・雑誌には丸田喜助自筆写本「山本氏解剖学 内臓編」のほか、江戸末期の写本と推定される「薬微」、「口中秘方」がある。
046	山岸善澄家文書	明治維新期の戊辰戦争に狩りだされた日記2点と「仁礼中馬稼（軽尻）」の史料がある。
047	小河原郷中文書	明治24年の町村請施行の編成替えによる第1区・小河原東組（現高畑町）、第2区・同南組（現南小河原町）、第3区・大字小河原北組、第4区・同新田組（現新田町）の共有文書で、昭和6年（1931）以降平成21年（2009）までの史料である。郷中恒例の初集会・議決書類や申合わせ書類、大賦銭割差引々揃帳、決算揃帳や小河原神社関係史料などが主なものである。
048	小河原町区有文書	江戸期から明治期、大正・昭和期にかけての史料である。初出の史料は宝暦13年（1763）の「小河原村末御検地野帳」（本田）であり、このとき作成された「小河原村御検地野帳」には検地の実態が記載されている。明治期では太政官布告・布達があるほか、壬申地券から地租改正にかけての下調べ帳や畦畔取調簿がある。また、小河原郷中初集会会議録は昭和36年から平成3年まであり、このほか昭和35年以降の小河原神社関係史料がある。
049	袖山三樹雄家文書	名主家文書としての性格が強い、江戸期から明治期、大正・昭和期にかけての史料である。江戸期では、寛文6年（1666）2月の「小川原村庄兵衛田畑坪々石高帳」や天和2年（1682）の永代売渡証文ほか質地証書類、宝暦13年（1763）の地押検地関係史料がある。明治期以降では、土地・税制関係史料が多い。
050	駒津悦男家文書	名主関係史料が多く、江戸期から明治期のものが主な史料である。江戸期では、寛文6年（1666）の「仁礼村田畑大水帳」、天明・寛政・文化期の年貢土目録のほか名主関係史料や、文政期以降の間屋・街道交通関係史料などがある。また、寛保2年（1742）戊の満水で「山抜け押し」の沢水で被害をうけた絵図、用水せぎ川除堤絵図などの絵図がある。明治期では県道模様換之願、亀倉村地内畦畔取調扣などの史料がある。
051	境文雄家文書	江戸期から明治期、大正期、昭和初期にかけての史料であり、江戸期のものが多く。江戸期では、寛文6年（1666）の「小河原村南組惣高改帳」（指出し検地帳）や享保期の畑売渡証文、宝暦期の地押検地関係史料があるほか、土目録、勘定帳などがある。地押検地の経過を示す検地野帳は、宝暦13年の「小川原村末御検地野帳」があり、帳簿26帳がある。明治期以降では県布達類のほか桑苗・養蚕関係史料がある。
052	大沢英一郎家文書	江戸期から明治期、大正期、昭和期にかけての史料群であり、肝煎・名主関係文書のほか文政期の学問所・教倫舎（心学講舎）に関わる史料等がある。江戸期では、「寛永の覚（小笠原検地関連）」、「沼目村地詰御帳」などがある。また、教倫舎や心学普及に関わる文書などとして、心学断書、対策、心学問答控書、棚御元根草、御学問所御引渡之時覚御書付、学問所聴人留簿、京都明倫舎関係書簡、心学手扣などがある。
053	丸山行勝家文書	江戸期から明治期にかけての史料であり、名主ほか村役を勤めたときの文書を中心とするものである。江戸期では、文政7年（1824）の「宿方割増勿銭村ゆたい割返し人別帳」、天保5年の「福島村借財人別御書上帳控へ」、天保6年の「借入金三役加判人別元帳」などの史料がある。明治期では、「御用御廻章書留帳」、「西組御年貢名寄帳」、「東組御年貢仮名寄帳」などの史料がある。

史料番号	史料名	主な内容
054	福島町第六番組所蔵文書	江戸期から明治期、大正期、昭和期・平成に渡る福島町六番組道祖神祭の史料である。初出の記録は嘉永二年（1849）酉正月十五となっており、毎年記録が綴られている。（昭和20年から25年の間は終戦のため、農事実行組合長宅で道祖神祭、山ノ神祭を実施したことから、この間の記録を欠く。）なお、平成19年度以降の記録も欠く。
055	野辺町区有文書	江戸、明治、大正・昭和期の史料である。江戸期では、須坂藩初期の地押し検地帳とされる元和7年の「野辺村地詰帳」があり、村石新田の成立に関わる寛文4年の「野辺新田辰改帳」のほか享保頃までの新田開発史料がある。このほか、奥山野辺・米持・井上・亀倉四ヶ村入会山関係史料や用水係争関係史料、俵約規定史料などがある。明治期では、壬申地券発行のための調査・野帳である各所分字亀春帳などの関係小帳簿、丈量誤謬関係史料がある。昭和期では、大恐慌後の失業救済低利資金借用・返済に関わる史料や戦後の青年団活動史料などがある。
056	亀倉町区有文書	江戸、明治、大正、昭和期の史料である。江戸期では、寛永13年の「子歳亀倉村御年貢割付之事」が、明治3年（1870）まで一部欠落している年貢割付状を除いて現存している。村の近世史料の大半は割付・皆済状である。このほか、入会山・山林関係史料もある。明治期では、地租改正関係帳簿である明治8年の「地順収穫地租・価取調帳」のほか、「丈量誤謬訂正願書」、「脱落地編入願書」などがある。大正期では、青年会関係や養蚕関係史料があり、昭和期では昭和17年から同19年の「区費収入支出記入帳」などの史料がある。
057	牧久雄家文書	江戸、明治、大正、昭和期の家業（質貸し、生糸の買い付け、製糸、不動産など）関係史料である。江戸期では、横浜開港直後に生糸を集荷して横浜と上州に移出したり、糸仲間に生糸・繭の仕入金を融通していたことを記した安政7年の「店卸調覚帳」がある。明治期では、質借金店卸簿、店卸累年比較表などの金融関係史料がある。製糸関連では、明治初期の生糸輸出状況・売込商人等を記した「横浜生絲改会社輸入高表」や明治14年の東行社と第二十四銀行との荷為替・前金借用の約定書のほか河東鉄道の創立の経緯を記したもの、千曲川通船で新潟米が運ばれたことを記した史料などがある。
057	牧久雄家文書 追加分	畑小作請証書、田地売渡し証書などの証書類と、封筒、はがきを年月別に束ねた書簡類が主であるが、製糸関係、納税関係、町会議員関係、河東鉄道・電鉄関連の史料がある。史料名としては、「水車之義二付御伺」、「水利使用株売渡ノ証書」、「長野電鉄・河東鉄道合併認可書」、「長野電鉄汽車時刻表」などがある。
058	福島新田文書	松代藩領高井郡福島村の新田として開発された「四ッ屋村」、後の福島新田村の江戸期から明治期以降に亘る史料で、江戸期のものが多い。江戸期では、「売渡シ申田地証文之事」などのほか、四ッ屋村と福島新田の名称の経緯がわかる史料がある。このほか「千曲川除普請関係史料」、「諸夫銀人別割合帳」、「諸夫銀書出し覚帳」、「国役節木船銀御用夫人別割合帳」などの史料がある。明治から大正期では、租税や村使いの史料がある。
059	米山嘉一家文書	豊洲村「第三区」の区長当時、明治30年代から大正11年を中心とした史料である。村や地区の行政上の予算・決算書類の外、役場からの通知、農会の活動関係の書類が大半を占めている。史料としては、「長野県上高井郡豊洲村明治二十八年度歳入歳出総計予算」、「日露開戦による肥料の高騰で緑肥・堆肥奨励についての依頼」、「明治三十九年県税戸数割賦課等級表」などがある。
060	田中敏治家文書	明治期から大正期の田中儀助の仁礼村における生活に係る史料が主なものである。明治期では、「蚕日記覚帳」、「水車覚帳」、「八幡講無尽簿」などの史料がある。大正期では、「関谷組幹事扣井帳」、「祭典費明細帳」などの史料があり、このほか、「歩兵第三十聯隊満州事変出動図面」などの史料がある。

史料番号	史料名	主な内容
061	高内鉄弥家文書	明治期から大正・昭和期にわたる軸物、製糸関係史料、書籍等のほか、会員章などの史料がある。製糸関係では、明治、大正期の「製糸工場調」、昭和期の「長野県製糸工場名簿」、「蚕の新品種」などの史料がある。書籍等では、『新地誌 巻一』、小學讀本、國語讀本などの史料があり、このほか大日本蚕糸会特別会員之章などの史料がある。
062	坂田近右衛門家文書 追加分	江戸期の須坂藩主・藩士の世界をかいま見る史料である。文化・文政期では、「乍恐以書付奉願上侯御事、御組順席」など、文久、元治、慶応期では、「御隠殿御普請入用帳」、、「定府并勤番御宛行取調帳」、「寅之御物成金納帳」など、明治期では、「御用達順席帳」（氏族・卒の禄）などの史料がある。なお、本史料のほか、江戸屋敷の生活の様子や江戸での藩主・藩士の生活をかいま見える史料は須坂市博物館が所蔵保管しており、須坂藩士族坂田近右衛門家史料目録として目録化してある。
063	牧七郎右衛門家文書	江戸期から明治期の史料であり、牧家の歴史や近世の須坂の歴史にかかる史料を含んでいる。享保の「（御用金・才覚金などの証文）」は須坂藩と豪商の関係を示す史料であり、「諸用記」「萬日記」などは当時の世相を示す史料である。宝暦期では、「御寺分畑小作入差引扣」、文化・文政期では「御触書扣」、「松代御領鬼無里御林諸事留」、嘉永、安政期では、「差上申御請書之事」、「奉公人御請状之事」などの史料があり、明治期では、「御支配下村々騒動之節見舞扣」、「養蚕中萬日記」などの史料がある。
064	水野寿夫家文書	明治後期から大正初期の製糸関係史料で、当時の金丸製糸工場の経営状況に関する史料である。明治期では、「明治35年度製糸賃金内渡支払簿」、「明治42年度物品受渡及賃金簿」などがあり、大正期では、大正5年の「製糸賃金支払簿」などがある。
065	黒川真家寄贈文書	江戸期から明治期にわたる史料群で、須坂藩士黒川孝行に関わる須坂藩関係史料を主とした史料群であり、幕末・維新期の史料が中心である。江戸期では、須坂藩史料として貧弱な分野であった分限帳の一つである「御家中順席分限帳」（天保後期～弘化）があり、このほか安政期の勤番目付番士であった黒川孝行関係史料、呉服橋御門心得方・御番士勤方などがある。明治期では、初年の元須坂庁構内土族住居屋敷地払下げ願や西屋敷に関する史料、八小区戸長関係史料、秩禄処分関係史料、奥田神社関係史料がある。
066	鈴木敏司家寄贈文書	明治時から昭和期にわたる史料であり、日記と文書に分けられる。日記は明治期の懐中日記、大正期の当用日記（一部重要日記、）などによるもので、ポケット版の手帳ながら市誌の内容を裏付ける具体的事象がメモった近代資料である。文書関係は和紙による古文書3点のほかは近代文書である。
067	上原太郎家文書(塩屋文書)	明治以降、明治、大正、昭和期にわたる味噌・醤油醸造業等に係る史料群である。江戸期では、「こんれい祝儀納覧」、「元服祝儀」などがある。明治期では、須坂藩最後の藩主・恭之進が中野五郎大夫にあてた明治元年の「舌代」（書簡）や明治3年から同45年までの土地集積状況を示す史料としての包紙「明治年間田畑屋敷地買入証文」（48本の買入証文）などがある。また、塩屋醤油店の店名による「掛取り帳」、「売上帳」などの史料がある。
068	坂本家関係文書	「坂本家文書目録」（006）にかかわる史料で、幕末期の坂本家が経営を拡大し江戸に進出して、商取引を展開している状況の一端示す史料であり、既存の坂本家文書を補完するものと言える。文政、天保期では、「御服物御通」、「萬御通帳」などがあり、安政、文久期では、「道中控并同年小遣帳之写」、「新吉原町浅草田町御貸附金調帳」などの史料がある。
069	丸山正道家文書	江戸期、大正期の史料が主である。江戸期では、「入用覚」、「差上申連印証文之事（下書）」や康楽寺関係書簡の史料がある。大正期では、書簡（封書）がほとんどである。このほか、古文書の複製資料などの史料がある。

史料番号	史料名	主な内容
070	真木序家文書	江戸期、明治、大正、昭和期の書籍と絵はがきなどによる史料である。江戸期の書籍には、『軍用記』（全巻7巻）などがあり、明治、大正期では、『絵入古今明細年代記 全』、『上高井歴史 全』などがある。また大量の絵はがきは、明治から昭和にかけて当時の世相を知り得る史料である。
071	牧幸一郎家文書	江戸期から明治、大正、昭和期にわたる史料群である。江戸期では、天文8年（1539）の「元重聞書 札方古実一」などのほか、「紅葉山下御門議定」、「江戸流行料理通大全 坤」など文化期以降の史料が中心である。明治期以降大正、昭和期では、「插花人名録」、「插花百種十體 天地」や「謡曲會諸事控」などの華道・插花（遠流挿花）や謡曲関係史料が多くある。このほか行政関係史料として、昭和期の昭和3年から13年に至る「須坂町要覧」、役場庶務規定、事務報告書、「須坂町常会史料」、「須坂町会会議録」など須坂町町会関係史料がある。
072	市川幸夫家文書	江戸期から明治期以降にかかる史料である。江戸元禄期では検地帳や「塩野村灰野方八ヶ村山論絵図」などがあり、文化・文政期以降では、「下灰野名寄御改帳」、「老万石御一備練兵略譚 全」などの史料がある。明治期では、灰野村・園里村の役職者としての史料が多く、「管下灰野四人之者硫黄試掘願」、「請願巡查配置願」などの史料がある。また、江戸期を含め、科学・医学・数学関係の書籍資料や史学（日本史・中国史）関連の史料がある。このほか「谷川用水水門設定会事件」、「谷川用水新堰取潰請求訴訟」等の訴訟関係史料がある。
073	墨坂神社文書	墨坂神社を支えてきた旧小山村にかかわる村落関係史料で、江戸時代からの名主家文書と明治以降の小山村（明治25年以降は豊丘村）関係史料群である。江戸期では、山論に関する文書、「小山村亥新田改帳」、「屋部組名寄帳」、「寿泉院境内須坂小山地域絵図面」や、安永から幕末維新期までの「未引高覚」ほか小山村引高にかかる帳簿がある。明治期では、村送り一札など戸籍関係史料のほか土地丈量調査に関する帳簿や「丈量誤謬野取帳」、「耕地丈量野取帳」などの史料がある。
074	(欠番)	
075	吉池一彦家文書	江戸期を中心とした松代領の支配関係にかかる名主家文書などの史料群である。宝暦期では、「御条目」や「大検見様御泊り賄米受取一札」があり、天保期以降と推測される「辰正月」「午正月」などの史料がある。松代領関係では、代官所・職奉行所・道橋方役所・郡奉行所から発給された文書に対する「受（請）取覚」や、「御蔵収納」「玄米納」などの受取に関連する史料、諸勘定の「割合帳」、「割合人別帳」などの史料がある。このほか、衣類反物・染物・薬種・御茶・材木・蚕種などの商取引にかかわる史料や、食べ物など個人消費にかかわる史料、越後国頸城郡武士村からの屋根葺稼渡世にかかわる「村送一札」などの史料がある。
076	浦野康彦家文書	江戸期中心の文書などと典籍、浦野氏系譜関連、巻・軸からなる史料であり、須坂藩との関係史料も多い。江戸期では、「東昌寺開基並世代記控」や「東山道出張日記」、「須坂藩感状」などのほか「川中島合戦圖」、「甲越信戦録」、「甲陽軍鑑」などがある。また、「信濃國地震満水録」、「須坂町縮絵図」などの史料のほか、奥田・招魂両社に関する史料として、「奥田招魂社両社寄附地証書」がある。また、心学関係文書・桃源舎錦洞評・須坂藩家老日誌・見聞録などは当時を知り得る史料である。
077	永井順裕家文書	明治22年4月から同31年4月までの小山村および豊丘村の議会関係文書であり、合併時の議会選出や村税関係についての史料である。
078	岡澤健治家文書	昭和18年（1943）、19年の戦時下における豊洲村高畑地域の農村生活・農業生産にかかわる通達類・メモ類が中心となっている。食糧増産、賃金統制、米穀類、藁工品の供出、肥料・農薬・農業機材の配給、勤労働員の請入計画など戦時下の農村の実情に係る史料がある。

史料番号	史料名	主な内容
079	関谷和子家文書	<p>明治13年11月から昭和31年までの近現代の史料である。明治期では、「入〇（イマル）関谷商舗」の蚕種関係の史料が多く、大正期の共同水汲み場史料などがある。このほか、アジア・太平洋戦争後の電気機器共同組合関係の史料がある。書籍関係では、明治期の教科書類と須坂高等女学校の教科書類が多い。このほか、戦時下の高女教育の内容を知り得る昭和17年3月発行の『報國』創刊號（長野縣須坂高等女學校報國團）などの史料がある。</p>
080	神尾經子家文書	<p>明治期から大正・昭和期にかけての家業の製糸業関係の史料が多い。明治期では、明治6年「約定仕証書」、同23年「製糸製造所鑑札」など、現在地（本上町）での製糸業関係史料がある。大正期では、購入した繭の数量及び価格などを調査した商工省調査などがある。昭和初期では、製糸業概略報告書、女工実態調査及び同作業日数や戦後の昭和21年農林省・全国農業会公布の「農地改革について」などの史料がある。書籍類では、文政・天保期の『千社の多和式連』、明治期の『あさかお日記』などの和装本や文部省監修尋常科教科書などの史料がある。</p>